

【様式】

令和元年度 学校マネジメントシート

学校名（ 杉の子特別支援学校 石薬師分校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校をめざす。
(2)	育みたい 児童生徒像	・ 自立と社会参加をめざし、主体的に取り組む子ども ・ 自己肯定感や他者を思いやる気持ちをもち、自他の命を大切にし、人権感覚あふれる子ども
	ありたい 教職員像	・ 特別支援教育に情熱をもって取り組み、子どものニーズや障がいの特性に応じた教育活動や地域支援を推進する教員 ・ 対話・会話を大切にし、同僚と協働でき、組織力の向上をめざす教員 ・ 防災対策や防災教育、人権感覚あふれる学校づくり等、子どもたちが安心・安全に過ごせる学校づくりを推進していく教員 ・ 保護者・地域・関係機関と連携し、就学前から卒業後までの一貫した指導・支援を推進していく教員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈児童・生徒〉 ・ 自立と社会参加に向けて、様々な体験的な学習を経験して、卒業後の生活に必要な力や主体性を育てほしい。 ・ 一人ひとりが活かされる仲間づくりを推進してほしい。 〈保護者〉 ・ 子ども一人ひとりのニーズに応じた自立と社会参加に向けた教育と進路実現を推進してほしい。 ・ 安心・安全な学習環境を維持継続してほしい。 〈地域の学校・関係機関〉 ・ 地域における特別支援教育の充実・推進に向け、センター的機能を発揮してほしい。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 〈保護者〉 ・ 児童生徒一人ひとりのニーズに応じた安心・安全な教育 〈地域の学校〉 ・ 交流を通しての共生共学に対する理解と推進 ・ 地域の特別支援教育のセンター的機能 〈地域の関係機関（企業・福祉施設等）〉 ・ 情報提供や障がい者理解に向けた支援 〈地域社会〉 ・ 本校の教育活動の公開と情報提供	連携する相手への要望・期待 〈保護者〉 ・ 目指す学校づくりへの理解と協力 〈地域の学校〉 ・ 交流を通しての様々な活動や体験 〈地域の関係機関（企業・福祉施設等）〉 ・ 現場実習の受け入れ及び就労実現 ・ 職業授業への情報やノウハウの提供 ・ 放課後等の利用、卒業後の入所 ・ 就労や施設利用に関する情報の提供 〈地域社会〉 ・ 社会活動への参加や進路先の確保、卒業後の支援 ・ 本校の教育活動の理解と協力
(3) 前年度の学校関係者評価等	・ キャリア教育プログラムを活用した教育実践や授業改善を進めるとともに、新学習指導要領に対応した教育内容の実践や教育課程の編成が必要である。 ・ 地域に開かれた学校としての取り組みを進めるために、地域への情報発信やマスコミ等を活用した広報についても検討し、また保護者等へのニーズに応じた適切な情報発信の内容や量について検討を進める必要がある。 ・ 働きやすい職場づくりを進めるために、さらに業務の改善や効率化を進め、職員の負担軽減を図ることが求められる。	

(4) 現状と課題	教育活動	・自立と社会参加を目指した一貫性のあるキャリア教育の推進、新学習指導要領に対応した教育実践を確立する必要がある。 ・命を大切にする教育、人権教育の推進を図る必要がある。 ・自立と社会参加を目指す教育の充実に向け、多様な体験的な学習機会を設定し、系統的・計画的・組織的な取り組みを推進する必要がある。
	学校運営等	・特別支援教育におけるセンター的機能の充実を図る必要がある。 ・組織的な実践力・対応力の構築、専門性の向上を推進する必要がある。 ・より实际的で多様な場面設定がなされた防災訓練、危機管理訓練等を実施し、教職員の対応力向上を推進する必要がある。 ・本校・分校、関係機関（鈴鹿病院、石高等）、保護者との連携や情報共有の推進、地域とのつながりを強化し、開かれた学校への展開を推進する必要がある。 ・信頼される学校、教職員が働きやすい職場であるための取り組みを推進していく必要がある。 ・業務内容、校内組織の見直しを推進し、総勤務時間の縮減に向けた取り組みを推進していく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	・自立と社会参加を目指した一貫性のあるキャリア教育の推進、新学習指導要領に対応した教育実践を確立する。 ・命を大切にする教育、人権教育を推進する。 ・自立と社会参加を目指す教育の充実に向け、多様な体験的な学習機会を設定し、系統的・計画的・組織的に取り組む。
学校運営等	・特別支援教育におけるセンター的機能の充実を図る。 ・組織的な実践力・対応力の構築、専門性の向上を推進する。 ・より实际的で多様な場面設定がなされた防災訓練、危機管理訓練等を実施し、教職員の対応力向上を推進する。 ・本校・分校、関係機関（鈴鹿病院、石高等）、保護者との連携や情報共有の推進、地域とのつながりを強化し、開かれた学校への展開を推進する。 ・信頼される学校、働きやすい職場であるための取り組みを推進する。 ・業務内容、校内組織の見直しを推進し、総勤務時間の縮減に向けた取り組みを推進する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
○キャリア教育の推進と新学習指導要領への対応	(1) キャリア教育プログラムを保護者に周知するとともに、個別の教育支援計画や指導計画の目標に反映させ、具体的な支援に活用する。 【活動指標】 ・保護者対象キャリア教育プログラム活用についての説明会：年間1回 ・職員対象キャリア教育プログラム活用研修：年間1回 (2) 新学習指導要領の内容について職員研修を行い、新教育課程の編成に向け検討していく。 【活動指標】	(1) 活用に向けて、以下のような取り組みを行った。 ・保護者対象キャリア教育プログラム説明会 ：4月に実施。 ・職員対象キャリア教育プログラム活用研修 ：4月に実施。 (2) 以下のように実施した。 ・職員研修 ：県教育委員会の説明会	

	・新学習指導要領についての職員研修:年間1回 ・教育課程検討委員会:年間3回以上	を受けて実施を予定していたが、説明会が延期になっているため、教頭会全国大会の資料を配布する等した。 ・教育課程検討委員会 :5月に第1回、9月に第2回、2月に第3回を実施した。	
○「命を大切に する教育」 「人権教育」 「道徳教育」 の推進	(1)様々な場面を通して仲間作りを推進し、外部講師の講義を含め生徒の実態に合わせた指導を行い、実践記録を残していく。 【活動指標】 ・学年・学級での取り組み:各学期1回以上	(1)生徒会活動や学校行事を通じて、「ともだちアンケート」や「ともだちのいいところ探し」といった仲間を認めることにつながる取り組みを毎学期実施し、記録をとった。また外部講師による講義を2回実施した。	
○自立と社会参加を 目指した系統的・計画的・組織的な 取り組み	(1)「進路見学会」や「進路説明会」等を通じて情報共有し見通しを持ってもらうことで、保護者との連携を密にしていく。 【活動指標】 ・保護者対象進路説明会:年3回 ・保護者対象進路見学会:年2回 ・就労アセスメント説明会:年1回 ・卒業生のお話を聞く会:年1回 (2)系統的に各種実習を実施し、生徒の実態や特性に合った実習先を選択するとともに、実習後の様子についても担任や学年団と情報共有し、適切な進路指導を進める。 ・校内実習:年間2期間 ・現場実習:年間3期間 ・3年生対象進路個別懇談会:1学期1回	(1)以下のように実施した。 ・保護者対象進路・ 実習説明会:3回 ・保護者対象進路見学会 :2回 ・就労アセスメント説明会 :1回 ・卒業生のお話を聞く会:2回 (2)以下のように実施した。 ・校内実習:2期間 ・現場実習:3期間 ・3年生対象進路懇談会 :1学期に1回実施。それ以降も個々に必要に応じて実施。	
改善課題			
・本年度の教育活動の柱とした「キャリア教育の推進」「命を大切にする教育・人権教育」「自立と社会参加を目指す取り組み」を横断的にとらえた学習活動として「卒業生のお話を聞く会～生活編～」を初めて実施し、生徒からも大変好評であった。「職業」中心の教育課程ということもあり、「働く人になることを目指した学習」が多くなりがちであるため、今後一層より多角的な視点から生徒の将来を見据えた学習活動の工夫が必要である。 ・令和3年度入学生より新教育課程でスタートするべく計画していたが、高等部新学習指導要領説明会の実施延期に伴い、令和4年度入学生より施行するようスケジュールを修正した。生徒の実態に即し、学校全体として、必要とされる力は何なのか、どのように学ばせていくのが効果的であるのかをしっかりと検討し、新教育課程を編成していかなければならない。			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
○センター的機能の充実	(1) 地域の小・中学校や関係機関職員対象の研修講座や体験研修を実施する。 【活動指標】 ・各研修講座を年間2回以上実施する。 (2) 地域の全中学校を訪問し、担当教員との連携をはかるとともに、必要に応じて支援のアドバイスをを行う。 【活動指標】 ・鈴鹿市、亀山市の全中学校への訪問支援:各校年1回以上	(1) 以下のように実施した。 ・「夏季研修講座in杉の子」:7月(本校と共催) ・「分校一日体験研修」 :6月・9月 (2) 9月末までに校区内の全公立中学校を1回ずつ訪問しアドバイスをを行った。	
○組織的な実践力、対応力につながる専門性の向上	(1) 教職員の資質向上に向けた自立活動や生徒指導に関する研修会を行う。 【活動指標】 ・職員の指導力向上に向けた研修会:年2回以上	(1) 以下のような研修会を行った。 ・「生徒指導全体研修」 :4月 ・「自立活動について」 :5月 ・「教材教具の工夫開発および ICT の活用」 :8月(本分合同研修) ・「進路指導について」 :8月(本分 B 課程研修) ・「社会に出るためにつけておきたい力」 :1月(本分 B 課程研修)	
○危機管理体制の強化	(1) 危機管理に関する各マニュアルの見直しを行うとともに、「生徒下校時所在確認一覧表」を作成し、それをもとに対処訓練を行う。 【活動指標】 ・下校時災害対応訓練:年1回	(1) 自主通学生の「生徒下校時所在確認一覧表」は作成済み。下校時災害対応訓練は9月に実施した。	
○保護者や地域との連携	(1) 保護者や地域への情報発信を積極的に行うとともに、PTAと一層の連携強化をはかる。 【活動指標】 ・運動会や文化祭での学習成果の発表:年2回 ・学校ホームページによる発信:月1回更新 ・PTA新聞の発行 ・特別な教育活動の報道提供	(1) 以下のような情報発信を行った。 ・運動会・文化祭で学習成果を発表した。文化祭は地域へ発信し、一般公開も行った。 ・ホームページの「高等部たより」を月数回更新した。 ・PTA 新聞はこれまでに1回発行された。 ・就労先開拓に向けての	

		「パートナーシップ会議」の様子を「すずかめホームニュース」に掲載された。また、関ドライブインでの職業製品販売について報道提供を行った。	
○働きやすい職場作り	(1) 校内組織の改編を実施し、より適切で無駄なく効果的に運営できる組織になるべく検証し、必要な調整を行う。 【活動指標】 ・職員アンケートによる満足度:80%(ポイント+5)以上 (2) 学年を超え、互いに理解し合い、協力できる体制を作る。 【活動指標】 ・職員アンケートによる満足度:80%以上 (3) 会議の効率化と定時退校日の確実な実施を行い、職員の負担感の軽減をはかる。 【活動指標】 ・会議の55分以内終了:80%以上 ・毎月の定時退校日実施率:90%以上	(1) 職員アンケートの「合理的運営」カテゴリ全項目での「満足」「やや満足」は67.5%であり、指標達成はできなかった。各項目のポイントは昨年度+20以上と上昇傾向にある。 (2) 職員アンケートの「学年を超えた協力体制」での「満足」「やや満足」は60%であり、指標達成はできなかった。ポイントも-6と下降した。 (3) 1月までの実施状況は以下のようである。 ・会議の55分以内終了:80%であり、どうにか達成できた。 ・定時退校日実施率:100%実施できた。	

改善課題

- ・「センター的機能の充実」「専門性の向上」「危機管理体制の強化」「保護者・地域との連携」については活動指標が達成された。一層の充実に向け、新たな取り組みを進めていく必要がある。
- ・「働きやすい職場づくり」にむけた「効果的な組織運営」については、業務配分の偏りを是正するべく昨年度より改編に着手し、今年度より新組織で運営を行っているが、新組織が定着しておらず、確認や再調整が必要な事も多く「慣れないための負荷」が生じている。今年度末に見直しを予定しており、よりよい形へ微修正し、1～2年後の課題解決を目指していく。
- ・「学年を超えた協力体制」については、今年度より新設された分掌である「学部代表者会」を中心とし、現場実習残留者の授業など新規で取り組みを進めている部分もあるが、まだ機能しきれていない。補欠の入り方など、職場全体で意見を出し合い、新たな方策を考えていく必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・「命を大切にする教育」や「職業班」等での外部講師招聘は地域資源の活用の意味からも意義がある。また卒業生による「卒業生の話を聞く会～生活編～」も、卒業後の生活を自分の事として考えるよいきっかけになる。継続的な実施や新たな人材活用等考えていくと良い。 ・ホームページによる外部への発信方法の工夫等、これまで課題であった部分に一定の成果が得られており、今後一層の充実した情報発信を行ってほしい。
---------------------	--

	・「危機管理体制」については、東日本大震災時の大川小学校の判例が基準になる。取り組まなければならない内容を精査して、できる部分から充実させていかなければならない。 ・昨年度準備をしてきた組織改編が今年から実施され、生みの苦しみはあると思うが、職員満足度調査の結果等から明らかになった課題について重点的に対策を考えていく必要がある。
--	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・高等部新学習指導要領を受け、生徒の障がいの多様化に対応できるよう、つけさせたい力、学ばせたい内容を整理し、本校小中学部との系統性も視野に入れながら新教育課程を編成していく。 ・杉の子キャリア教育プログラムの視点に則り、教員の専門性を高めるべく研修を進めるとともに、授業担当者会を定期的に持ち、外部人材の活用も含め、生徒のニーズに応じた幅広い学習方法を検討し実践していく。
学校運営についての改善策	・分掌レベルでの石薬師高校との連携を進め、危機管理体制や特別なニーズのある生徒に対する支援体制等を一層強化していく。 ・「働きやすい職場づくり」に向け、新運営組織を微修正し、一層業務の均質化をはかるとともに、校内の協力体制について新たな方策を考えていく。